

授業科目	数学Ⅱ		担当教員	森 淳紀	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	<p>【基礎】 地方初級・中級、高卒警察官などで出題される数学の問題にとどまらず、数的知能にも利用できる計算力・思考力を習得し、得点出来る学力を養う。</p> <p>【応用】 国家公務員、地方公務員、警察官、消防官等の公務員採用試験に対応できる知識と計算能力の向上を目的とする。</p>				
到達目標	<p>【基礎】 数学範囲で出題される1~2問のうち半数を得点できることを目標とする。</p> <p>【応用】 公務員試験で試される分野の中で、将来、公務員として必要とされる数学の基礎学力を養成する。基礎的な計算能力を修得し、図形に関する知識を運用し、方程式、関数などの周辺分野に取り組むことができる。</p>				
テキスト・参考図書等	<p>"絶対"合格シリーズ 自然科学 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 自然科学 問題集編 "絶対"合格シリーズ 自然科学 ドリル編 試験対策演習プリント</p>				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	評価試験、小テスト、その他（授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項	<p>【基礎】 各章ごとに確認テストを行う。確認テストは、WebClass を用いて行う事から、パソコン持参のうへ、授業に参加すること。</p> <p>【応用】 修得しなければならない重要な分野は限られている。積極的に取り組む姿勢が苦手意識を克服する第一歩である。速く正確に正解を得ることができるよう真剣に取り組もう。</p>				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	【基礎】 2次方程式・2次不等式(2)	解と係数の関係		
	2	2次方程式・2次不等式(2)	解の個数		
	3	2次関数(1)	頂点の座標		
	4	2次関数(2)	グラフの対称移動		
	5	2次関数(2)	グラフの平行移動		
	6	2次関数(3)	共有点の個数		
	7	2次関数(3)	共有点の個数を持つための範囲		
	8	2次関数(4)	最大値、最小値		
	9	2次関数(4)	最大値、最小値		
	10	2次関数(4)	最大値、最小値		
	11	三角比(1)	三角比の計算		
	12	三角比(2)	三角比の単位円		
	13	三角比(2)	三角比の公式		
	14	総まとめ	まとめと問題演習		
	15	総まとめ	まとめと問題演習		
	16	【応用】 2次方程式・2次不等式	解と係数の関係		

	(2)	
17	2次方程式・2次不等式 (2)	解の個数
18	2次関数 (1)	頂点の座標
19	2次関数 (2)	グラフの対称移動
20	2次関数 (2)	グラフの平行移動
21	2次関数 (3)	共有点の個数
22	2次関数 (3)	共有点の個数を持つための範囲
23	2次関数 (4)	最大値、最小値
24	2次関数 (4)	最大値、最小値
25	2次関数 (4)	最大値、最小値
26	三角比(1)	三角比の計算
27	三角比(2)	三角比の単位円
28	三角比(2)	三角比の公式
29	総まとめ	まとめと問題演習
30	総まとめ	まとめと問題演習

授業科目	数的知能Ⅰ		担当教員	岩城 浩司	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	45回	時間数
授業目的	試験に対応した様々な問題を單元ごとに基礎から応用まで学習し、数的知能（数的推理、資料解釈）の得点力を上げる。				
到達目標	各単元の基本解法を習得する。確認テスト及び単元テストの正答率を75%以上にする。				
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 数的推理・資料解釈 テキスト編 補助プリント教材 導入動画教材				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50	評価試験、小テスト、その他（授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項	数的知能は、基礎計算が中心になるため、繰り返し取り組むことで理解度が格段に上がります。復習の重要性を理解し取り組んでください。また、学習効果を高めるため、新しい単元に入る前には、その単元の導入動画を事前視聴（予習）し、理解を深めたうえで授業に参加してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	授業の説明 / 濃度	授業の進め方、評価方法 / 混合の基本、水の追加、食塩の追加		
	2	濃度	蒸発、3種混合と重さの比、2回に分けての計算		
	3	濃度	問題演習		
	4	濃度	グループ学習		
	5	年齢	年齢問題の基本、問題演習		
	6	年齢	問題演習、グループ学習		
	7	売買損益	割引・割増の計算、原価・定価・売価の関係、個数を考慮した売買		
	8	売買損益	問題演習、グループ学習		
	9	平均	平均と合計、複数グループの平均		
	10	平均	問題演習、グループ学習		
	11	一次方程式	[=] の関係、相当算		
	12	一次方程式	問題演習		
	13	連立方程式	計算の工夫、変動前と変動後、過不足算		
	14	連立方程式	問題演習		
	15	比と割合	配分（按分）計算、連比、比の計算（比例式）		
	16	比と割合	比と割合で表された情報の整理、グループ学習		
	17	資料解釈	導入問題		
	18	資料解釈	実数と構成比		
	19	資料解釈	実数と構成比		
	20	三角形と多角形	直線と角、外角、多角形、角の二等分線の定理		
21	三角形と多角形	平行線と線分の比、合同・相似、直角三角形、三平方の定理			

22	三角形と多角形	三平方の定理の応用、三角形の重心、グループ学習
23	旅人算	速さの基本、出会い算
24	旅人算	追いかかけ算、周回問題
25	旅人算	問題演習
26	旅人算	グループ学習
27	通過算	固定されたものの通過
28	通過算	電車同士の通過、動くもの同士の通過
29	通過算	問題演習、グループ学習
30	流水算	流水算の基本、往復の時間差
31	流水算	具体的な値が少ない流水算、問題演習、グループ学習
32	仕事算	仕事算の基本、仕事の交替
33	仕事算	3人以上の仕事算、のべ算
34	仕事算	2通りで表された仕事量
35	仕事算	問題演習、グループ学習
36	資料解釈	指数と構成比
37	資料解釈	増減率
38	円	円と直線、円周角、円と接線、接弦定理
39	円	方べきの定理、円周と弧、グループ学習
40	場合の数 (数え上げと順列)	サイコロの目、整数整理
41	場合の数 (数え上げと順列)	順列 (並べ替え)、順列 (隣り合う・連続する)
42	場合の数 (数え上げと順列)	順列 (同じものを含む順列)、円順列、数珠順列
43	場合の数 (順列と組合せ)	組合せ、余事象
44	場合の数 (順列と組合せ)	仕切り法、色塗り
45	場合の数	問題演習、グループ学習

授業科目	数的知能 II		担当教員	岩城 浩司	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	45回	時間数
授業目的	試験に対応した様々な問題を單元ごとに基礎から応用まで学習し、数的知能（数的推理、資料解釈）の得点力を上げる。				
到達目標	各単元の基本解法を習得する。確認テスト及び單元テストの正答率を75%以上にする。基礎模擬試験における数的知能分野の正答率を60%以上にする。				
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 数的推理・資料解釈 テキスト編 補助プリント教材 導入動画教材				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50	評価試験、小テスト、その他（授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項	数的知能は、基礎計算が中心になるため、繰り返し取り組むことで理解度が格段に上がります。復習の重要性を理解し取り組んでください。また、学習効果を高めるため、新たな單元に入る前には、その単元の導入動画を事前視聴（予習）し、理解を深めたうえで授業に参加してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	確率（順列と組合せ）	数え上げ、順列、組合せ		
	2	確率（排反・独立）	排反事象と独立試行、じゃんけん、余事象		
	3	確率（反復試行・条件付確率・期待値）	反復試行		
	4	確率（反復試行・条件付確率・期待値）	条件付確率、期待値		
	5	確率	問題演習		
	6	確率	グループ学習		
	7	その他の速さ問題	平均の速さ、区間別の異なる速さ、忘れ物による往復		
	8	その他の速さ問題	問題演習		
	9	時計算	長針と短針のなす角度、指定された時刻、問題演習		
	10	その他の速さ問題 / 時計算	グループ学習		
	11	不等式	大小関係、過不足算の不等式、勝敗ライン		
	12	不等式	問題演習、グループ学習		
	13	面積（三角形）	三角形の面積比、相似な三角形の面積比		
	14	面積（三角形）	相似な三角形の面積比、グループ学習		
	15	面積（円・扇形）	円と扇形の面積、面積の加減（工夫計算）		
	16	面積（円・扇形）	面積の加減（工夫計算）、グループ学習		
	17	面積（その他）	さまざまな図形の面積		
	18	ニュートン算	ニュートン算の基本、不明な情報が2つの場合、不明な情報が3つの場合		
	19	ニュートン算	問題演習、グループ学習		
	20	記数法	n進法からn進法への変換、四則演算、問題演習		
21	約数・倍数	最小公倍数、最大公約数、割る数と余り			

22	約数・倍数	約数の個数、問題演習、グループ学習
23	整数	計算式を満たす整数、連続する整数
24	整数	各桁の操作、問題演習、グループ学習
25	魔方陣	$3 \times 3 = 9$ マス、 $4 \times 4 = 16$ マス、演習問題
26	覆面算・虫食い算	加減の筆算、掛け算の筆算、割り算の筆算、問題演習
27	魔方陣 / 覆面算・虫食い算	問題演習、グループ学習
28	立体（体積・表面積・展開図）	さまざまな図形の体積・表面積、相似な図形の体積比
29	立体（体積・表面積・展開図）	展開図と最短距離
30	立体（切断・回転体・その他）	立体の切断、回転体
31	立体	問題演習、グループ学習
32	資料解釈	その他の資料
33	資料解釈	問題演習
34	不定方程式	値の求め方、場合の数
35	不定方程式	問題演習、グループ学習
36	まとめ	総合演習
37	まとめ	総合演習
38	まとめ	総合演習
39	まとめ	総合演習
40	まとめ	総合演習
41	まとめ	総合演習
42	まとめ	総合演習
43	まとめ	総合演習
44	まとめ	総合演習
45	まとめ	総合演習

授業科目	世界史Ⅰ	担当教員	軽部 諭		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	
授業目的	用語の確認を中心に行い、世界史未履修者でも問題文がすんなり頭に入るレベルまでの向上を目標とする。毎講義前回範囲の小テストを実施し、各自で到達度を確認できるようにする				
到達目標	問題文に使用されるレベルの用語の基本的理解、及び用語を問われた場合に選択肢の中から選ぶことができるレベル				
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 人文科学 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 人文科学 問題集編 "絶対"合格シリーズ 人文科学 ドリル編				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	評価試験、小テスト、その他（授業態度等）を合わせて、総合的に評価する		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
	その他	20			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	四代文明・古代ギリシア世界	メソポタミア等の古代文明の相違を確認し、ギリシア民主化の過程を確認する		
	2	古代ギリシア世界・古代ローマ世界	ヘレニズム世界の成立からローマの帝政への流れを確認する		
	3	中世ヨーロッパ①・②	中世ヨーロッパにおけるキリスト教との関わりから教皇権絶頂期への流れを確認する		
	4	中世ヨーロッパ②・③	十字軍に遠征から、封建制の崩壊までの流れを確認する		
	5	近世ヨーロッパ①・②	レコンキスタから三十年戦争への流れを確認する		
	6	近世ヨーロッパ②・③	イギリス・フランスロシアを中心とした絶対王朝の成立期を確認する		
	7	市民革命①	イギリス市民革命を確認する		
	8	市民革命②・③	アメリカ独立戦争、フランス革命を確認する		
	9	ナポレオン時代・産業革命	ナポレオン時代と産業革命を確認する		
	10	19～20Cのヨーロッパ①・②	イギリスヴィクトリア時代から帝政ロシア末期までを確認する		
	11	19～20Cのヨーロッパ②・帝国主義から世界大戦へ	アメリカ南北戦争から第一次世界大戦までを確認する		
	12	ロシア革命と戦後の国際社会	ロシア革命と国際連盟発足の流れを確認する		
	13	戦間期の欧米諸国	欧米諸国の戦間期の動きを確認する		
	14	第二次世界大戦・戦後と冷戦のはじまり	第二次世界大戦と戦後処理について確認する		
	15	戦後と冷戦のはじまり・冷戦の拡大、各国の首相	東ヨーロッパ諸国の社会主義国化から現代までの動きを確認する		

授業科目	世界史 II	担当教員	軽部 諭		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	
授業目的	世界史 I と同様に必要な情報の用語を目指す。前半は中国史を学習し、後半は世界史用語の確認を中心に行う。毎講義前回範囲の小テストを実施し、各自で到達度を確認できるようにする				
到達目標	問題文に使用されるレベルの用語の基本的理解、及び用語を問われた場合に選択肢の中から選ぶことができるレベル				
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 人文科学 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 人文科学 問題集編 "絶対"合格シリーズ 人文科学 ドリル編				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	評価試験、小テスト、その他（授業態度等）を合わせて、総合的に評価する		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	中国史①・②	殷代から漢代までを確認する		
	2	中国史③・④	三国時代から唐代・開元の治までを確認する		
	3	中国史④・⑤	唐の滅亡からモンゴル帝国までを確認する		
	4	中国史⑥・⑦	元代から清代初期までを確認する		
	5	中国史⑦・⑧	康熙帝の治世から太平天国の乱までを確認する		
	6	中国史⑨・⑩	洋務運動から辛亥革命までを確認する		
	7	中国史⑩～⑫	中華民国初期から中華人民共和国成立までを確認する		
	8	中国史⑫・世界史用語まとめ①	大躍進運動以降の現代の中国史と、古代の用語の確認をする		
	9	世界史用語まとめ②	近世から近世西洋史の用語の確認をする		
	10	世界史用語まとめ③	近代西洋史の用語の確認をする		
	11	世界史用語まとめ④	現代世界史と、殷代から隋代までの用語の確認をする		
	12	世界史用語まとめ⑤	唐代から清代初期までの用語の確認をする		
	13	世界史用語まとめ⑥	アヘン戦争以降の中国史とイスラム史の用語の確認をする		
	14	四大文明・古代ギリシア世界	古代ローマ世界からフランク王国分裂までの流れを捋一と用語穴埋めで確認する		
15	古代ローマ世界・中世ヨーロッパ①	ビザンツ帝国の歴史と中世における封建制の崩壊までの流れを捋一と用語穴埋めで確認する			

授業科目	政治・経済Ⅰ		担当教員	中坪 俊博	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数
授業目的	政治・経済は単純な暗記よりも、理解を伴った記憶の方が、知識が定着します。政治・経済の授業では、単に語句を暗記するのではなく、「仕組み」や「問題点」を理解することを目的とします。				
到達目標	政治・経済は、社会科学系では、最も確実な得点源となります。授業目的に基づき、応用力を身につけ、得意科目とすることを目標とします。				
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 社会科学 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 社会科学 問題集編 "絶対"合格シリーズ 社会科学 ドリル編 担当教員作成によるレジュメ及び過去問題集				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	評価試験、小テスト、その他（授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項	自学自習時は、復習を中心とした勉強を実施して下さい。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	統治機構 三権分立	国会・内閣・裁判所の相互関係		
	2	統治機構 三権分立	過去問題演習		
	3	統治機構 国会	二院制、国会の種類、国会の権限、衆議院の優越		
	4	統治機構 国会	過去問題演習		
	5	統治機構 内閣	内閣の構成、内閣の権限、内閣総理大臣の権限		
	6	統治機構 内閣	過去問題演習		
	7	統治機構 裁判所	裁判所の役割、裁判所の組織		
	8	統治機構 裁判所	違憲立法審査権、裁判員制度		
	9	統治機構 裁判所	過去問題演習		
	10	日本国憲法の基本的性格	大日本帝国憲法と日本国憲法の違い		
	11	日本国憲法の基本的性格	日本国憲法の三大原則、憲法改正		
	12	日本国憲法の基本的性格	過去問題演習		
	13	地方自治	地方自治の本旨、地方自治の組織、直接請求権		
	14	地方自治	過去問題演習		
	15	選挙制度	民主選挙の原則、様々な選挙制度、各選挙制度の特色		
	16	選挙制度	日本における現在の選挙制度、公職選挙法、一票の格差問題		
	17	選挙制度	過去問題演習		
	18	民主主義の発展	民主政治の確立		
	19	民主主義の発展	過去問題演習		
	20	各国の政治制度	イギリスの政治制度、アメリカの政治制度、その他主要国の政治制度		
	21	各国の政治制度	過去問題演習		
22	基本的人権の尊重(1) 自由権	精神的自由権、経済的自由権、身体的自由権			

23	基本的人権の尊重（2）社会権・参政権・請求権	社会権、参政権
24	基本的人権の尊重（3）その他、前提となる人権など	外国人の人権、幸福追求権
25	基本的人権の尊重（3）その他、前提となる人権など	平等権など
26	基本的人権の尊重	過去問題演習
27	基本的人権の尊重	過去問題演習
28	総まとめ	まとめと問題演習
29	総まとめ	まとめと問題演習
30	総まとめ	まとめと問題演習

授業科目	政治・経済Ⅱ		担当教員	中坪 俊博	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数
授業目的	政治・経済は単純な暗記よりも、理解を伴った記憶の方が、知識が定着します。政治・経済の授業では、単に語句を暗記するのではなく、「仕組み」や「問題点」を理解することを目的とします。				
到達目標	政治・経済は、社会科学系では、最も確実な得点源となります。授業目的に基づき、応用力を身につけ、得意科目とすることを目標とします。				
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 社会科学 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 社会科学 問題集編 "絶対"合格シリーズ 社会科学 ドリル編 担当教員作成によるレジュメ及び過去問題集				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	評価試験、小テスト、その他（授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項	自学自習時は、復習を中心とした勉強を実施して下さい。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	国際政治と日本	国際法、国際連盟と国際連合		
	2	国際政治と日本	戦後国際政治、日本を取り巻く課題		
	3	国際政治と日本	過去問題演習		
	4	経済のしくみ 市場と価格	授業曲線と供給曲線、価格の自動調節機能		
	5	経済のしくみ 市場と価格	市場の失敗、不完全競争市場		
	6	経済のしくみ 市場と価格	過去問題演習		
	7	企業のしくみ	会社の種類、株式会社のしくみ		
	8	企業のしくみ	所有と経営の分離、CSR		
	9	企業のしくみ	過去問題演習		
	10	景気と物価	景気循環、インフレーションとデフレーション		
	11	景気と物価	過去問題演習		
	12	金融と日本銀行の金融政策	金融、信用創造、金融政策		
	13	金融と日本銀行の金融政策	三大金融政策		
	14	金融と日本銀行の金融政策	過去問題演習		
	15	財政政策	一般会計予算、税金		
	16	財政政策	公債、財政の役割		
	17	財政政策	過去問題演習		
	18	為替レートと貿易	自由貿易と保護貿易、国際収支		
	19	為替レートと貿易	為替レートと貿易、為替の歴史		
	20	為替レートと貿易	過去問題演習		
	21	国際経済との関わり	第二次世界大戦後の国際経済体制		
	22	国際経済との関わり	地域経済機構		
23	国際経済との関わり	過去問題演習			

24	国民所得と経済成長（様々な経済指標）	国民所得、経済成長
25	国民所得と経済成長（様々な経済指標）	過去問題演習
26	現代日本経済の構造と課題	戦後の経済改革、高度成長期、好況期と不況期
27	現代日本経済の構造と課題	過去問題演習
28	総まとめ	まとめと問題演習
29	総まとめ	まとめと問題演習
30	総まとめ	まとめと問題演習

授業科目	地理Ⅰ	担当教員	金坂 信成		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	
授業目的	系統別地理をテーマごとに学び、地理的思考力を身につける。 合わせて、過去問題演習から実践的理解力・応用力を高め、公務員試験での得点力アップにつなげる。				
到達目標	「地理」の基礎的学力を向上させ、かつ公務員試験における「地理」の出題傾向を理解する。				
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 人文科学 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 人文科学 問題集編 "絶対"合格シリーズ 人文科学 ドリル編				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	評価試験、小テスト、その他（授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
	その他	20			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	地理学習のポイント、大陸と州	板書を使った説明と問題演習		
	2	地形	板書を使った説明と問題演習		
	3	気候①	板書を使った説明と問題演習		
	4	気候②	板書を使った説明と問題演習		
	5	気候③	板書を使った説明と問題演習		
	6	平野①	板書を使った説明と問題演習		
	7	平野②	板書を使った説明と問題演習		
	8	土壌①	板書を使った説明と問題演習		
	9	土壌②	板書を使った説明と問題演習		
	10	風	板書を使った説明と問題演習		
	11	日本の気候	板書を使った説明と問題演習		
	12	地図	板書を使った説明と問題演習		
	13	世界の農牧業①	板書を使った説明と問題演習		
	14	世界の農牧業②	板書を使った説明と問題演習		
	15	前期の総まとめ	板書を使った説明と問題演習		

授業科目	地理Ⅱ	担当教員	金坂 信成		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	
授業目的	世界各国の地誌をエリア別に学び、1つのエリアの地理を系統横断的に理解できるようにする。合わせて、過去問題演習で実践的理解力・応用力を高め、公務員試験での得点力アップにつなげる。				
到達目標	模擬試験「地理」の正答率の向上。				
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 人文科学 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 人文科学 問題集編 "絶対"合格シリーズ 人文科学 ドリル編				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	評価試験、小テスト、その他（授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
	その他	20			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	東アジアについて	板書を使った説明と問題演習		
	2	東南アジアについて①	板書を使った説明と問題演習		
	3	東南アジアについて②	板書を使った説明と問題演習		
	4	南アジアについて	板書を使った説明と問題演習		
	5	西アジアについて	板書を使った説明と問題演習		
	6	ヨーロッパについて①	板書を使った説明と問題演習		
	7	ヨーロッパについて②	板書を使った説明と問題演習		
	8	北アメリカ大陸について①	板書を使った説明と問題演習		
	9	北アメリカ大陸について②	板書を使った説明と問題演習		
	10	南アメリカ大陸について	板書を使った説明と問題演習		
	11	アフリカ大陸について	板書を使った説明と問題演習		
	12	オセアニアについて	板書を使った説明と問題演習		
	13	過去問演習①	板書を使った説明と問題演習		
	14	過去問演習②	板書を使った説明と問題演習		
15	後期の総まとめ	板書を使った説明と問題演習			

授業科目	日本史Ⅰ		担当教員	小林 功典	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	各時代の歴史的事実とその因果関係を正確に理解し、生きた知識としてしっかりと身につけさせることを目的とする。				
到達目標	授業目的に基づき、問題演習を繰り返し実施することにより、本試験に合格できる学力を獲得することを目標とする。				
テキスト・参考図書等	”絶対”合格シリーズ 人文科学 テキスト編 ”絶対”合格シリーズ 人文科学 問題集編 ”絶対”合格シリーズ 人文科学 ドリル編 担当教員作成によるレジュメ及び過去問題集				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	評価試験、小テスト、その他（授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項	自学自習時は、復習中心で勉強して下さい。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	古代1	講義と問題演習		
	2	古代2	講義と問題演習		
	3	古代3	講義と問題演習		
	4	古代4	講義と問題演習		
	5	古代5	講義と問題演習		
	6	古代6	講義と問題演習		
	7	中世1	講義と問題演習		
	8	中世2	講義と問題演習		
	9	中世3	講義と問題演習		
	10	中世4	講義と問題演習		
	11	近世1	講義と問題演習		
	12	近世2	講義と問題演習		
	13	近世3	講義と問題演習		
	14	近世4	講義と問題演習		
15	近世5	講義と問題演習			

授業科目	日本史 II		担当教員	小林 功典	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	各時代の歴史的事実とその因果関係を正確に理解し、生きた知識としてしっかりと身につけさせることを目的とする。				
到達目標	授業目的に基づき、問題演習を繰り返し実施することにより、本試験に合格できる学力を獲得することを目標とする。				
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 人文科学 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 人文科学 問題集編 "絶対"合格シリーズ 人文科学 ドリル編 担当教員作成によるレジュメ及び過去問題集				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	評価試験、小テスト、その他（授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項	自学自習時は、復習中心として下さい。後期は、気が抜けやすいので注意して下さい。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	近世 6	講義と問題演習		
	2	近世 7	講義と問題演習		
	3	近代 1	講義と問題演習		
	4	近代 2	講義と問題演習		
	5	近代 3	講義と問題演習		
	6	近代 4	講義と問題演習		
	7	近代 5	講義と問題演習		
	8	近代 6	講義と問題演習		
	9	近代 7	講義と問題演習		
	10	現代 1	講義と問題演習		
	11	現代 2	講義と問題演習		
	12	文化史 1	講義と問題演習		
	13	文化史 2	講義と問題演習		
	14	文化史 3.4	講義と問題演習		
15	文化史 5.6	講義と問題演習			

授業科目	判断知能 I		担当教員	小野寺 海都	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	45回	時間数
授業目的	この授業では、柔軟な思考力と迅速な判断力を身につけるために、各单元ごとに基本となる考え方・解き方・図表の描き方・演習・解説を繰り返し、公務員試験において得点源の核となることを目的とする。				
到達目標	各单元の基本解法を習得し、テキストの例題・演習問題を確実に解けるようにする。確認テスト及び単元テストの正答率を70%以上にする。				
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 判断推理・空間把握 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 判断推理・空間把握 問題集編 "絶対"合格シリーズ 判断推理・空間把握 ドリル編				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50	評価試験、小テスト、その他（授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項	1. 講義中の私語、居眠り、スマートフォンなどの操作を行わないこと。 2. 授業及び確認テストの復習を必ず行うこと。 3. 単元毎の予習動画について、担当の指示に従い必ず視聴し、理解して授業に参加すること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	対応関係 1	対応表（2つの事柄）について理解する。		
	2	対応関係 2	対応表（3つの事柄）について理解する。		
	3	対応関係 3	場合分けで判断する方法を理解する。また、間接的な表現についても理解する。		
	4	対応関係 4	その他の対応表の問題について理解する。		
	5	対応関係 5	組み合わせについて理解する。		
	6	対応関係 6	問題演習		
	7	折り紙 1	逆順に書き込んで解く方法について理解する。		
	8	折り紙 2	選択肢に書き込んで解く方法について理解する。		
	9	折り紙 3	問題演習		
	10	順序関係 1	数直線を描いて判断する方法を理解する。また、数直線の平均についても理解する。		
	11	順序関係 2	ブロック化で判断する方法を理解する。		
	12	順序関係 3	順位の比較、途中経過から判断する方法を理解する。		
	13	順序関係 4	樹形図を描いて判断する方法を理解する。また、時計のズレについても理解する。		
	14	順序関係 5	問題演習		
	15	道順・位相 1	最短経路の求め方について理解する。		
	16	道順・位相 2	一筆書きの問題の解き方について理解する。		
	17	道順・位相 3	問題演習		
18	試合・勝敗 1	リーグ戦で図を描いて判断する方法を理解する。			

19	試合・勝敗 2	リーグ戦の特殊な場合について判断する方法を理解する。
20	試合・勝敗 3	トーナメント戦のトーナメント表から判断する方法を理解する。
21	試合・勝敗 4	問題演習
22	試合・勝敗 5	問題演習
23	展開図 1	正六面体（立方体）の展開図について理解する。
24	展開図 2	正八面体の展開図について理解する。
25	展開図 3	問題演習
26	展開図 4	五面図の描き方、サイコロの問題の解き方について理解する。
27	展開図 5	問題演習
28	位置・方位 1	配置図から判断する方法を理解する。
29	位置・方位 2	座席の問題の解き方について理解する。
30	位置・方位 3	円卓の問題の解き方について理解する。
31	位置・方位 4	方位の問題の解き方について理解する。
32	位置・方位 5	問題演習
33	平面図形 1	図形の数え上げについて理解する。
34	平面図形 2	断片を組み合わせて図形を作る方法を理解する。
35	平面図形 3	問題演習
36	論理 1	命題、逆、裏、対偶の関係および三段論法について理解する。
37	論理 2	「かつ」「または」の分解・合成について理解する。
38	論理 3	命題とベン図の関係について理解する
39	論理 4	その他の問題について理解する。
40	論理 5	問題演習
41	軌跡 1	直線上に図形を転がす場合の軌跡について理解する。
42	軌跡 2	問題演習
43	軌跡 3	円周上に図形を転がした場合の軌跡について理解する。
44	軌跡 4	その他の図形の軌跡について理解する。
45	軌跡 5	問題演習

授業科目	判断知能 II		担当教員	小野寺 海都	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	45回	時間数
授業目的	この授業では、柔軟な思考力と迅速な判断力を身につけるために、各单元ごとに基本となる考え方・解き方・図表の描き方・演習・解説を繰り返し、公務員試験において得点源の核となることを目的とする。				
到達目標	各单元の基本解法を習得し、テキストの例題・演習問題を確実に解けるようにする。確認テスト及び単元テストの正答率を70%以上にする。 基礎模擬試験における判断知能分野の正答率を60%以上にする。				
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 判断推理・空間把握 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 判断推理・空間把握 問題集編 "絶対"合格シリーズ 判断推理・空間把握 ドリル編				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50	評価試験、小テスト、その他（授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
	その他	20			
履修上の留意事項	1. 講義中の私語、居眠り、スマートフォンなどの操作を行わないこと。 2. 授業及び確認テストの復習を必ず行うこと。 3. 単元毎の予習動画について、担当の指示に従い必ず視聴し、理解して授業に参加すること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	夏休み明け実力判定テスト	前期の単元について復習をする。		
	2	集合・人数 1	ベン図の解き方について理解する。		
	3	集合・人数 2	問題演習		
	4	集合・人数 3	キャロル表から判断する方法を理解する。		
	5	集合・人数 4	最大・最小の表し方について理解する。		
	6	集合・人数 5	問題演習		
	7	うそつき 1	グループ分けでうそつきを導く方法を理解する。		
	8	うそつき 2	半分が本当、半分がうその問題の解き方を理解する。		
	9	うそつき 3	番町式での解き方を理解する。		
	10	うそつき 4	問題演習		
	11	暗号 1	50音対応について理解する。		
	12	暗号 2	アルファベット対応について理解する。		
	13	暗号 3	問題演習		
	14	空間図形の分割 1	図形を着色、串刺しした場合について理解する。		
	15	空間図形の分割 2	図形を切断した場合について理解する。		
	16	空間図形の分割 3	問題演習		
	17	多面体・切断・回転 1	各多面体の特徴について理解する。		
18	多面体・切断・回転 2	多面体の切断面について理解する。			

19	多面体・切断・回転3	回転体について理解する。
20	多面体・切断・回転4	問題演習
21	手順1	天秤量りを使って判断する方法を理解する。
22	手順2	ニセ金の問題について理解する。
23	手順3	帽子の色の判断、定員ありの移動について理解する。
24	手順4	油分け算の図の描き方、ハノイの塔、必勝法について理解する。
25	手順5	作業工程、通過算、並び替えの問題について理解する。
26	手順6	対戦推移の問題について理解する。
27	手順7	問題演習
28	暦・カレンダー1	暦・カレンダーのルール、閏年について理解する。
29	暦・カレンダー2	「おき」「ごと」について理解する。
30	暦・カレンダー3	問題演習
31	空間図形の投影1	投影図の見方について理解する。
32	空間図形の投影2	積み木の問題の解き方について理解する。
33	空間図形の投影3	問題演習
34	数量推理1	鳩ノ巣原理、○×問題について理解する。
35	数量推理2	方程式と数づくりの問題について理解する。
36	数量推理3	表を用いて判断する方法を理解する。
37	数量推理4	魔方陣を用いて判断する方法を理解する。
38	数量推理5	問題演習
39	総合演習	問題演習
40	総合演習	問題演習
41	総合演習	問題演習
42	総合演習	問題演習
43	総合演習	問題演習
44	総合演習	問題演習
45	総合演習	問題演習

授業科目	模擬演習Ⅰ		担当教員	小野寺 海都	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数
授業目的	模擬試験（基礎編）を計15回実施することで、公務員本試験を想定した時間配分と、各科目の得意・不得意分野を見極める。				
到達目標	1. 科目毎の解答時間配分を意識しながら、効率的に正答率を上げていく。 2. 正答率について、教養分野45%以上、知能分野65%以上（判断知能70%、数的知能60%）を目標とする。				
テキスト・参考図書等	模擬試験（TAC） 第1回～7回 / 模擬試験（実務教育出版） 第1回～4回 / ラインズSPI 模擬テスト 3回				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	小テスト（模擬試験結果）、その他（授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	60			
	提出物	0			
その他	40				
履修上の留意事項	模擬試験は、必ずやり直しを行う。この復習が実力と得点を上げる一番の近道と認識する。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	模擬試験（TAC） 第1回	2コマ連続の授業となる。教養試験を100分間行うため、90分間の1講義をまたぐことになる。		
	2	模擬試験（TAC） 第1回	教養試験終了後、適性試験は15分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。		
	3	模擬試験（実務教育出版） 第1回	2コマ連続の授業となる。教養試験を100分間行うため、90分間の1講義をまたぐことになる。		
	4	模擬試験（実務教育出版） 第1回	教養試験終了後、適性試験は15分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。		
	5	模擬試験（TAC） 第2回	2コマ連続の授業となる。教養試験を100分間行うため、90分間の1講義をまたぐことになる。		
	6	模擬試験（TAC） 第2回	教養試験終了後、適性試験は15分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。		
	7	SPI 模擬試験（ラインズSPI）	ラインズSPIの模擬テスト（マークシート型、言語30分、非言語40分）を行う。		
	8	SPI 問題演習	ラインズSPIを用いて「速度算」の問題演習を行う。		
	9	模擬試験（TAC） 第3回	2コマ連続の授業となる。教養試験を100分間行うため、90分間の1講義をまたぐことになる。		
	10	模擬試験（TAC） 第3回	教養試験終了後、適性試験は15分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。		
	11	模擬試験（TAC） 第4回	2コマ連続の授業となる。教養試験を100分間行うため、90分間の1講義をまたぐことになる。		
	12	模擬試験（TAC） 第4回	教養試験終了後、適性試験は15分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。		
	13	模擬試験（実務教育出版） 第2回	2コマ連続の授業となる。教養試験を100分間行うため、90分間の1講義をまたぐことになる。		
	14	模擬試験（実務教育出版） 第2回	教養試験終了後、適性試験は15分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。		
	15	SPI 模擬試験（ラインズSPI）	ラインズSPI内の模擬テスト（Web テスティング型 35分）を行う。		
	16	SPI 問題演習	ラインズSPIを用いて「場合の数、確率」の問題演習を行う。		
	17	模擬試験（TAC） 第5回	2コマ連続の授業となる。教養試験を100分間行うため、90分間の1講義をまたぐことになる。		
18	模擬試験（TAC） 第5回	教養試験終了後、適性試験は15分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。			

19	模擬試験 (TAC) 第 6 回	2 コマ連続の授業となる。教養試験を 100 分間行うため、90 分間の 1 講義をまたぐことになる。
20	模擬試験 (TAC) 第 6 回	教養試験終了後、適性試験は 15 分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。
21	模擬試験 (実務教育出版) 第 3 回	2 コマ連続の授業となる。教養試験を 100 分間行うため、90 分間の 1 講義をまたぐことになる。
22	模擬試験 (実務教育出版) 第 3 回	教養試験終了後、適性試験は 15 分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。
23	SPI 模擬試験 (ライنز SPI)	ライنز SPI 内の模擬テスト (テストセンター型 35 分) を行う。
24	SPI 問題演習	ライنز SPI を用いて「損益算」の問題演習を行う。
25	模擬試験 (TAC) 第 7 回	2 コマ連続の授業となる。教養試験を 100 分間行うため、90 分間の 1 講義をまたぐことになる。
26	模擬試験 (TAC) 第 7 回	教養試験終了後、適性検査は 15 分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。
27	模擬試験 (実務教育出版) 第 4 回	2 コマ連続の授業となる。教養試験を 100 分間行うため、90 分間の 1 講義をまたぐことになる。
28	模擬試験 (実務教育出版) 第 4 回	教養試験終了後、適性試験は 15 分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。
29	模擬試験 (TAC) 第 8 回	2 コマ連続の授業となる。教養試験を 100 分間行うため、90 分間の 1 講義をまたぐことになる。
30	模擬試験 (TAC) 第 8 回	教養試験終了後、適性試験は 15 分間行う。全試験終了後には、知能系において、問題の解答と解説を行う。

授業科目	2次試験対策Ⅰ		担当教員	小野寺 海都	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	就職活動（公務員面接[人物]試験合）について理解し、必要な分析（理解）と情報収集の方法について学びます。 面接（人物）試験についての形態を知り、基本動作（入退室と挨拶）練習や、基本的質問事項への返答準備を行います。				
到達目標	1. 基本動作（入退室、言葉遣い、表情、挨拶）を理解し、基本的な言動を身に付ける。 2. 公務員面接（人物）試験の概要を理解する。 3. 職種研究、自己分析（理解）を開始し、基本的質問事項（志望動機、自己PR）の原稿が作成できる。				
テキスト・参考図書等	プリント教材				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	小テスト（基本動作等の評価）、提出物、その他（授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	60			
その他	20				
履修上の留意事項	1. 公務員面接試験が、就職試験の人物試験であること、筆記（一次）試験との同時実施や筆記（一次）試験合格直後に実施されることを理解し、速やかに面接（人物）試験準備が整うよう、情報収集と自身の振り返り作業を真剣に取り組んでください。 2. 自身の思考整理や各種調査・確認記録などの提出課題について、真摯に取り組み作成提出してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	科目概要	公務員2次面接準備 [自己分析（自己理解）、企業（会社）研究、仕事（職種）研究、模擬面接練習等] について		
	2	自己分析	自己分析（自己理解）、長所・短所整理①		
	3	自己分析	自己分析（自己理解）、長所・短所整理②		
	4	職種研究	志望職種の調査、結果まとめ作成①		
	5	職種研究	志望職種の調査、結果まとめ作成②		
	6	職種研究	自己PRの作成①		
	7	職種研究	自己PRの作成②		
	8	職種研究	グループワーク：自己PRの発表と意見交換		
	9	書類作成	志望動機の作成①		
	10	書類作成	志望動機の作成①		
	11	書類作成	グループワーク：志望動機の発表と意見交換		
	12	書類作成	基本動作（入退室、挨拶）について①		
	13	面接対策	基本動作（入退室、挨拶）について②		
	14	面接対策	基本動作（入退室、挨拶）と試験形態について：個人面接、集団面接、集団討論		
15	振り返り	「2次試験対策Ⅰ」まとめと振り返り			

授業科目	2次試験対策Ⅱ		担当教員	小野寺 海都	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	<p>「2次試験対策Ⅰ」に続き、基本動作（入退室と挨拶）を身に付け、基本的質問事項（志望動機、自己PR）を完成（本番仕様）させます。</p> <p>自身の経験を振り返り、他者からの感想や意見を聞くことにより、新たな気づきを参考にして、自身の面接（人物）試験準備を完成させる。</p>				
到達目標	<p>1. 面接（人物）試験で表現する、「志望動機」「自己PR」の完成と発表（本番仕様）。</p> <p>2. 印象が良く、受験生らしい明るく爽やかな基本動作（入退室、言葉遣い、表情、挨拶）ができる。</p> <p>3. 受験をする試験・仕事を整理し、想定される質問項目の返答内容について構築ができる。</p>				
テキスト・参考図書等	プリント教材				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	小テスト（模擬面接等の評価）、提出物、その他（授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	60			
	提出物	20			
その他	20				
履修上の留意事項	<p>1. 他者の言動（意見や考え方、行動）を参考に、つねに自分自身が行っている対策や準備の、見直しと改善の意識をもって取り組んでください。</p> <p>2. 本試験での自分がイメージできるまで、繰り返し取り組むことが大切です。</p> <p>3. 自身の思考整理や各種調査・確認記録などの提出課題について、真摯に取り組み作成提出してください。</p>				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	面接対策	模擬面接①		
	2	面接対策	模擬面接②		
	3	面接対策	模擬面接③		
	4	面接対策	模擬面接④		
	5	面接対策	模擬面接⑤		
	6	面接対策	模擬面接⑥		
	7	面接対策	模擬面接⑦		
	8	面接対策	模擬面接⑧		
	9	面接対策	模擬面接⑨		
	10	面接対策	模擬面接⑩		
	11	面接対策	模擬集団討論		
	12	面接対策	模擬面接⑪		
	13	面接対策	模擬面接⑫		
	14	面接対策	模擬面接⑬		
15	振り返り	「2次試験対策Ⅱ」まとめと振り返り			

授業科目	英語Ⅰ	担当教員	山口 祐介		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	
授業目的	公務員試験に対応できる実践的な文法力、長文読解力、構文把握力、及び語彙力を習得し、根拠を持って正答を導き出せるようになる。				
到達目標	1. 英語基礎文法、公務員試験レベルの語彙力を習得し、読解能力の基礎を身につける。 2. 論理と根拠を正しく理解し、正答を導き出せるようになる。				
テキスト・参考図書等	自作 PowerPoint 自作演習プリント				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50	評価試験、小テスト、その他（授業態度等）を合わせて、総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項	毎回の授業で単語テスト（50点満点）を行う。前週に単語集を配布し、翌週の授業でテストを実施。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	英語Ⅰガイダンス・動詞時制（現在形・過去形）	授業内容と到達目標を示す。PowerPointを用いて指導。問題演習。		
	2	形容詞・副詞・比較	PowerPointを用いて指導 問題演習		
	3	前置詞	PowerPointを用いて指導 問題演習		
	4	文型①（SVOCについて）	PowerPointを用いて指導 問題演習		
	5	文型②（①のおさらい・問題演習）	問題演習		
	6	助動詞	PowerPointを用いて指導 問題演習		
	7	現在完了・過去完了	PowerPointを用いて指導 問題演習		
	8	受動態	PowerPointを用いて指導 問題演習		
	9	不定詞	PowerPointを用いて指導 問題演習		
	10	不定詞 さまざまな用法	PowerPointを用いて指導 問題演習		
	11	動名詞	PowerPointを用いて指導 問題演習		
	12	関係代名詞 主格	PowerPointを用いて指導 問題演習		
	13	関係代名詞 目的格 所有格	PowerPointを用いて指導 問題演習		
	14	知覚動詞・使役動詞	PowerPointを用いて指導 問題演習		
15	分詞構文	PowerPointを用いて指導 問題演習			

授業科目	英語Ⅱ	担当教員	山口 祐介		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	
授業目的	公務員試験に対応できる実践的な長文読解力、構文把握力、及び語彙力を習得し、根拠を持って正答を導き出せるようになる。				
到達目標	1. 公務員試験問題の選択肢と本文の整合性を確認し、正答の根拠となる英文の意味を理解できるようになる、 2. 公務員試験問題に頻出の語法や構文、そして英文独自の段落構成を理解し、知識と論理で正答にたどり着けるようになる。				
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 文章理解 テキスト (T) "絶対"合格シリーズ 文章理解 問題集 (Q) 自作 PowerPoint 自作プリント				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50	評価試験、小テスト、その他（授業態度等）を合わせて、総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項	毎回の授業で英単語テスト（50点満点）を行います。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	仮定法①	PowerPoint ファイルを用いて指導 問題演習		
	2	仮定法②	PowerPoint ファイルを用いて指導 問題演習		
	3	関係代名詞 what・関係副詞	PowerPoint ファイルを用いて指導 問題演習		
	4	関係代名詞・関係副詞の継続用法	PowerPoint ファイルを用いて指導 問題演習		
	5	長文読解問題演習（内容把握・空欄補充）	Tp229-234,273-276		
	6	長文読解問題演習（内容把握・空欄補充）	Tp235-240,278-282		
	7	長文読解問題演習（内容把握・空欄補充）	Tp241-246,283-287		
	8	長文読解問題演習（内容把握・空欄補充）	Tp247-252, 288-291		
	9	長文読解問題演習（内容把握・空欄補充）	Tp253-259,292-295		
	10	長文読解問題演習（内容把握・空欄補充）	Qp144,146,148 194,196		
	11	長文読解問題演習（内容把握・空欄補充）	Qp153-156		
	12	長文読解問題演習（内容把握・空欄補充）	Qp180-181,236,239		
	13	長文読解問題演習（内容把握・空欄補充）	Qp182-184		
	14	長文読解問題演習（内容把握・空欄補充）	Qp185-188		
15	長文読解問題演習（内容把握・空欄補充）	Qp188-191			

授業科目	基礎学習講座Ⅰ	担当教員	小野寺 海都		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	
授業目的	近年、公務員試験にて増加傾向にある、SPI試験に対応できるようにすることを目的とする。				
到達目標	SPI型公務員試験の言語・非言語分野（数的処理）のそれぞれの解法を身に付け、演習問題を確実に解けるようになることを目標とする。				
テキスト・参考図書等	ラインズ SPI				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	小テスト（単元テスト）、その他（授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	80			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項	近年、公務員試験でもSPI試験を採用する自治体が増加傾向にあります。一般的な公務員試験とSPI試験を比較すると、問題そのものは公務員試験より簡単ですが、短時間で大量に解く必要があるため、事前演習が重要になります。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	SPI ガイダンス、料金の割引	SPI試験がどのようなものか理解する。料金割引の問題の解き方を理解する。		
	2	料金の割引	問題演習		
	3	料金の割引	問題演習		
	4	2語の関係	2語の関係の問題の解き方を理解する。		
	5	代金の精算	代金の精算の問題の解き方を理解する。		
	6	代金の精算	問題演習		
	7	代金の精算	問題演習		
	8	語句の用法 熟語の意味	語句の用法の問題の解き方を理解する。 熟語の意味の問題の解き方を理解する。		
	9	分割払い	分割払いの問題の解き方を理解する。		
	10	分割払い	問題演習		
	11	分割払い	問題演習		
	12	文章の並び替え 長文読解	文章の並び替えの問題の解き方を理解する。 長文読解の問題の解き方を理解する。		
	13	表の読取	表の読取の問題の解き方を理解する。		
	14	表の読取 資料・長文の読取	問題演習 資料・長文の読取の問題の解き方を理解する。		
15	資料・長文の読取	資料・長文の読取の問題の解き方を理解する。			

授業科目	国語・文章理解Ⅰ	担当教員	柿森 拓郎		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30回	時間数	
授業目的	国語・文章理解は、出題文全体を素早く読み、選択肢を分析し、正確に解くための作業を行う科目である。まさに事務処理能力が問われる科目といえる。 まずは公務員試験に対応すべく、「基礎力」を磨くことを目的とする。				
到達目標	文章理解の「内容把握」、「空欄補充」、「文章整序」等の代表的な出題パターンについて、基本的解法を身につける。				
テキスト・参考図書等	”絶対”合格シリーズ 文章理解 テキスト編 公務員試験 地方初級・国家一般職テキスト 国語・文章理解 公務員試験 地方初級・国家一般職問題集 国語・文章理解 漢字学習トレーニング				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	評価試験、小テスト、その他（授業態度等）を合わせて、総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項	学生の実力や授業形式（オンライン等）で変更の可能性がある。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	授業ガイダンス 1	公務員試験用の自己紹介をする。公務員試験における文章理解の意味を知る。 論作文とは何か？①		
	2	授業ガイダンス 2	テキストやノートの使い方を知る。論作文とは何か？②		
	3	文章理解 1文を理解する①語彙＋漢検テキスト1テーマ（Aとする）	文章理解（内容把握）接続のこばに注目する。漢字エクササイズ。		
	4	文章理解 内容把握 1 1文を理解する②指示語＋A	文章理解（内容把握）強調表現に注目する。漢字エクササイズ。		
	5	文章理解 内容把握 2 1文を理解する③背景知識＋A	文章理解（内容把握）条件を表す表現を見つける。漢字エクササイズ。		
	6	文章理解 内容把握 3 1文を理解する④まとめ＋A	文章理解（内容把握）副詞の働きを知る。漢字エクササイズ。		
	7	文章理解 内容把握 4 文と文の関係を理解する①逆説、順接の接続詞＋A	文章理解（内容把握）指示語の働きを知る。漢字エクササイズ。		
	8	文章理解 内容把握 5 文と文の関係を理解する②言い換え、因果の接続詞＋A	文章理解（内容把握）例示の表現への対処方法を知る。漢字エクササイズ。		
	9	文章理解 内容把握 6 文と文の関係を理解する③その他の接続詞＋A	文章理解（内容把握）定義づけに線を引く。漢字エクササイズ。		
	10	文章理解 内容把握 7 文と文の関係を理解する④まとめ＋A	文章理解（内容把握）問題提起型の論の進め方を知る。漢字エクササイズ小テスト。		
	11	文章理解 内容把握 8 文全体の構造を知る①題の探し方・主張の探し方＋A	文章理解（内容把握）まとめの表現を見つける。漢字エクササイズ。		
	12	文章理解 内容把握 9 文全体の構造を知る②対比構造を知る＋A	文章理解（内容把握）「のだ」「のである」の役割を知る。漢字エクササイズ。		
13	文章理解 内容把握 10 文全体の構造を知る③重要な文とそうでない文を分け	文章理解（内容把握）「いわば」を見つけたらラッキーである。漢字エクササイズ。			

	る+A	
14	文章理解 文全体の構造を知る④筆者は味方！問題作成者は敵！！+A	文章理解（空欄補充）「このように」「こうして」は重要である。漢字エクササイズ。
15	文章理解 文章整序問題の解き方①接続詞の復習と桜陽の仕方+A	文章理解（空欄補充）同義語に注目する。漢字エクササイズ。
16	文章理解 文章整序問題の解き方②指示語の復習と応用の仕方+A	文章理解（空欄補充）空欄を後ろから指す指示語の扱いを知る。漢字エクササイズ。
17	文章理解 文章整序問題の演習①+A	文章理解（空欄補充）筆者名、題名もヒントになる。漢字エクササイズ。
18	文章理解 整序1 文章整序問題の演習②+A	文章理解（整序）整序はパズルである。漢字エクササイズ小テスト。
19	文章理解 整序2 文章整序問題の演習③+A	文章理解（整序）しりとり原則とは何か。
20	文章理解 整序3 主旨把握問題の解き方①全体の構造～の復習+A	文章理解（整序）内容は後まわしにして考える。
21	文章理解 整序4 主旨把握問題の解き方②題発見練習+A	文章理解（整序）グループ分け方法を知る。漢字エクササイズ。
22	文章理解 整序5 主旨把握問題の解き方③主張発見練習+A	文章理解（整序）指示語を手掛かりにする。
23	総合演習1 主旨把握問題演習+A	問題演習。四字熟語。
24	総合演習2 主旨把握問題演習+A	問題演習。四字熟語。
25	総合演習3 空欄補充の解き方+漢字の読み(B)	問題演習。四字熟語。
26	総合演習4 空欄補充演習①+B	問題演習。四字熟語。
27	総合演習5 空欄補充演習②+B	問題演習。四字熟語。
28	漢検演習1 前期の総復習①+B	漢検に挑戦（3級）
29	漢検演習2 前期の総復習②+B	漢検に挑戦（準2級）
30	漢検演習3 前期の総復習③+B	漢検に挑戦（2級）結果を踏まえて希望級を決定する。

授業科目	国語・文章理解Ⅱ		担当教員	柿森 拓郎	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数
授業目的	「国語・文章理解Ⅰ」を受け、ここでは応用段階に入る学習を行う。また、漢字能力検定試験（漢検）対策も一緒に行う。				
到達目標	模擬試験正答率を、「国語」、「文章理解」合わせて、50%以上を目指す。 漢字能力検定試験3級以上（個々で目標級が違う）の合格を目指す。				
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 文章理解 テキスト編 公務員試験 地方初級・国家一般職テキスト 国語・文章理解 公務員試験 地方初級・国家一般職問題集 国語・文章理解 漢字学習トレーニング				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	評価試験、小テスト、その他（授業態度等）を合わせて、総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	口語文法1 SPI対策国文法①格助詞+読解（内容一致）（空欄補充）=A+漢検対策	四字熟語。口語文法その1。漢検対策。		
	2	口語文法2 国文法①格助詞+読解（内容一致）（文章整序）=B+漢検対策	四字熟語。口語文法その2。漢検対策。		
	3	口語文法3 国文法②取り立て助詞+A+漢検対策	四字熟語。口語文法その3。漢検対策。		
	4	口語文法4 国文法②取り立て助詞+B+漢検対策	四字熟語。口語文法その4。漢検対策。		
	5	口語文法5 国文法③態（ヴォイス）+A+漢検対策	四字熟語。口語文法その5。漢検対策。		
	6	口語文法6 国文法③態（ヴォイス）+B+漢検対策	四字熟語。口語文法その6。漢検対策。		
	7	口語文法7 国文法④テンスとアスペクト+A+漢検	四字熟語。口語文法その7。漢検対策。		
	8	口語文法8 国文法⑤動詞の活用+B+漢検	四字熟語。口語文法その8。漢検対策。		
	9	口語文法9 国文法⑥自他動詞+A+漢検	四字熟語。口語文法その9。漢検対策。		
	10	口語文法10 国文法⑦形容詞・副詞+B+漢検	四字熟語。口語文法その10。漢検対策。		
	11	口語文法11 国文法⑧指示語+A+漢検	文学史、主な作品の冒頭文を知る。口語文法その11。漢検対策。		
	12	口語文法12 国文法⑨熟語の構成+B+漢検	現代文の問題演習、文中に根拠を求める。口語文法その12。漢検対策。		
	13	口語文法13 国文法⑩複文の構造+A+漢検	現代文の問題演習、短時間で解く方法を知る。口語文法その13。漢検対策。		
	14	四字熟語（テキスト1～30）+B+漢検	現代文の問題演習。口語文法その14。漢検対策。		
15	四字熟語（テキスト31～60）+A+漢検	現代文の問題演習、印のつけ方を確認する。口語文法その15。漢検対策。			

16	四字熟語 (テキスト61～90) +B+漢検	現代文の問題演習、文章の難解さと問題の難易度は異なる過去のL. C. を見直しながらか解く。口語文法その16。漢検対策。
17	四字熟語 (テキスト91～120) +A+漢検	現代文の問題演習、文章の難解さと問題の難易度は異なる。漢検対策。
18	四字熟語 (テキスト121～150) +B+漢検	古典文学
19	四字熟語 (テキスト151～180) +A+漢検	現代文学
20	四字熟語 (テキスト181～210) +B+漢検	日本文学史問題演習
21	四字熟語 (テキスト211～240) +A+漢検	世界文学
22	四字熟語 (テキスト241～270) +B+漢検	芸術史
23	四字熟語 (テキスト271～300) +A+漢検	現代文問題演習、漢検対策。
24	四字熟語 (テキスト300～333) +B+漢検	現代文問題演習、漢検対策。
25	分野別クリップ1 面接・論文・読解対策としての背景知識「近代、脱近代」+A+漢検	問題演習
26	分野別クリップ2 面接・論文・読解対策としての背景知識「言語・芸術」+B+漢検	問題演習
27	分野別クリップ3 面接・論文・読解対策としての背景知識「主観・客観・問主観」+A+漢検	問題演習
28	分野別クリップ4 面接・論文・読解対策としての背景知識「世界の〇〇主義を知る」+B+漢検	問題演習
29	分野別クリップ5 面接・論文・読解対策としての背景知識「法と正義」+A+漢検	問題演習
30	分野別クリップ6 面接・論文・読解対策としての背景知識「公務員と公共」+B+漢検	問題演習

授業科目	作文指導Ⅰ		担当教員	原田 直保美	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	最近の公務員試験は、人物評価を重視する傾向が強く、物の見方・考え方、表現力、判断力、観察力といった、総合的な能力が問われる。そのため、面接試験や作文試験が重要となる。ここでは、面接カード（エントリーシート）をはじめ、作文を書くための基本ルールの習得を目的とする。				
到達目標	実際に本試験を想定した「面接カード」や「作文（短文含む）」を作成する。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	提出物、その他（授業態度等）を合わせて、総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	50			
その他	50				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	作文基礎 1	実作		
	2	作文基礎 2	実作		
	3	作文基礎 3	実作		
	4	作文基礎 4	実作		
	5	作文基礎 5	実作		
	6	作文基礎 6	実作		
	7	作文基礎 7	実作		
	8	作文基礎 8	実作		
	9	作文基礎 9	実作		
	10	作文基礎 10	実作		
	11	作文指導 1 1	実作		
	12	作文指導 1 2	実作		
	13	エントリーシート	民間との違いを知る		
	14	面接カード 1	過去の事例を基に実際書いてみる		
15	面接カード 2	過去の事例を基に実際書いてみる			

授業科目	数学Ⅰ		担当教員	森 淳紀	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	<p>【基礎】 地方初級・中級、高卒警察官などで出題される数学の問題にとどまらず、数的知能にも利用できる計算力・思考力を習得し、得点出来る学力を養う。</p> <p>【応用】 国家公務員、地方公務員、警察官、消防官等の公務員採用試験に対応できる知識と計算能力の向上を目的とする。</p>				
到達目標	<p>【基礎】 数学範囲で出題される1~2問のうち半数を得点できることを目標とする。</p> <p>【応用】 公務員試験で試される分野の中で、将来、公務員として必要とされる数学の基礎学力を養成する。基礎的な計算能力を修得し、図形に関する知識を運用し、方程式、関数などの周辺分野に取り組むことができる。</p>				
テキスト・参考図書等	<p>"絶対"合格シリーズ 自然科学 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 自然科学 問題集編 "絶対"合格シリーズ 自然科学 ドリル編 試験対策演習プリント</p>				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	評価試験、小テスト、その他（授業態度等）を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項	<p>【基礎】 各章ごとに確認テストを行う。確認テストはWebClassを用いて行うことから、パソコン持参のうえ授業に参加すること。</p> <p>【応用】 修得しなければならない重要な分野は限られている。積極的に取り組む姿勢が苦手意識を克服する第一歩である。速く正確に正解を得ることができるよう真剣に取り組もう。</p>				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	【基礎】 基礎学力試験	試験結果を踏まえてコース分けを行う。		
	2	展開	式の展開		
	3	因数分解	因数分解の解法		
	4	平方根	平方根の計算、有理化		
	5	平方根	平方根の計算		
	6	1次関数(1)	1次関数の式の解法		
	7	1次関数(1)	2点を通る1次関数の式		
	8	1次関数(2)	交点の座標		
	9	1次関数(2)	中点の座標、対称座標		
	10	1次関数(3)	不等式の表す領域		
	11	1次関数(3)	連立不等式の表す領域		
	12	2次方程式・2次不等式(1)	因数分解による2次方程式の解き方、解の公式		
	13	2次方程式・2次不等式(1)	2次不等式		
	14	総まとめ	まとめと問題演習		
	15	総まとめ	まとめと問題演習		
16	【応用】 基礎学力試験	試験結果を踏まえてコース分けを行う。			

17	展開	式の展開
18	因数分解	因数分解の解法
19	平方根	平方根の計算、有理化
20	平方根	平方根の計算
21	1次関数(1)	1次関数の式の解法
22	1次関数(1)	2点を通る1次関数の式
23	1次関数(2)	交点の座標
24	1次関数(2)	中点の座標、対称座標
25	1次関数(3)	不等式の表す領域
26	1次関数(3)	連立不等式の表す領域
27	2次方程式・2次不等式 (1)	因数分解による2次方程式の解き方、解の公式
28	2次方程式・2次不等式 (1)	2次不等式
29	総まとめ	まとめと問題演習
30	総まとめ	まとめと問題演習

